

# 矢作川水系森林ボランティア協議会

調査団体名	： 矢作川水系森林ボランティア協議会	団体代表者名	： 丹羽健司
設立年	： 2004年1月	対応してくれた人の名前	： 丹羽健司
団体URL	： <a href="http://www.yamorikyuu.com/">http://www.yamorikyuu.com/</a>	調査員	： 後藤伸也、蜂須賀 功
活動拠点	： 矢作川流域	レポート作成者	： 蜂須賀 功
取材日	： 2014年1月30日		

## 活動内容

矢作川水系森林ボランティア協議会（以下、「矢森協」という）は、現在14の森林ボランティアグループから構成されており、約250人が所属している。主に、森の健康診断と協働間伐モデル林事業の2つの事業を行っている。

### ●森の健康診断

2005年から毎年6月第1土曜日に開催している。流域の人工林の現状を市民の五感と科学で明らかにしようと、これまで豊田市、根羽村、恵那市、平谷村、設楽町、岡崎市などで9回行われ、延べ約2,000名の参加者があり、調査も2巡目に入っている。森林ボランティアをリーダーに地元サポーター、自然観察サポーター、一般参加者を合わせて1班8人程度で編成し、植生調査と混み具合調査を合わせて50数項目の調査をマニュアルに従って調査する。現地では、調査後、林分の診断と処方全員で討議し、全体では秋に報告会を開催し、研究者によって集計分析された結果を参加者で共有している。2014年度で10回目を迎え、森の健康診断は終了する。

### ●協働間伐モデル林事業

豊田市山間部の幹線道路沿いの森林をモデルとして、山主と矢森協で林分調査を行い、森林インストラクターによる講習の後、山主と一緒に間伐を行う事業。年間8ha行っている。山主たちは、森林ボランティア（矢森協）から楽しさを、森林インストラクターから確かな技術を学び、山主たちの山仕事に対する意識が変わりつつある。

### <設立までの経緯>

2000年9月の東海豪雨は想像を超える豪雨であり、あと30分続けば豊田市内は水没していたかもしれない。矢作ダムの一面を覆い尽くす流木、「沢抜け」と呼ばれる土砂崩落などにより、山がいかにかぼつたらかしであるかを代表の丹羽氏は感じた。そこで、山の現状を調べるために、山主1,000戸にアンケートを行ったところ、山主は自分の山の現状を全く知らない、素人であることがわかった。同時に丹羽氏は、足助きこり塾で森林ボランティアを始め、その過程で、伊那市の森林塾で島崎メソッドに出会い、山仕事の楽しさを伝える精神と確立されたメソッドに感銘を受ける。その後、島崎メソッドの森林塾を豊田市に誘致し、森林ボランティアの育成をしながら、その受講生の活動の場として、足助きこり塾が中核となって、矢森協を設立した。

## キャッチフレーズ

山と都会に幅広い森の応援団づくり

## 会のモットー（何を大切にしているか）

「森林ボランティア、無償奉仕から交流学习へ」

無関心な山主に科学的で愉快的な山仕事を伝えること、広範な都市住民に森林と山村の実態を知らせること、プロの林業者に持続可能な林業を行えるよう応援することを目指す。

## 設立から現在に至るまでに変化したこと

矢森協の設立後、毎年、森の健康診断や間伐モデル事業を行ってきたが、森の健康診断事業も落ち着き、「成熟した時期」を迎えている。

また、組織が大きくなってきたための悩みかもしれないが、矢森協の理念の浸透が希薄になってきた気がする。「チェーンソー暴走族」にならないよう、矢森協の歴史、流れを皆に伝えていきたい。

## 現在直面している課題

最近、森林ボランティアの作業中の事故がよく報告されている。矢森協でも、いつ起きてもおかしくない認識しており、安全対策は重要な課題である。活動が広がれば広がるほど、事故の起こる可能性は高くなる。事故を防ぐにはどうすればよいか、矢森協内部で徹底的に議論した。その結果、事故を防ぐ特効薬はないが、従事者がお互いに見守りあい、自分の弱さを見せることを恐れない、すなわち「弱さの情報公開」をすることが重要だとわかった。迷った時は遠慮なく、仲間に聞く人間関係づくり、言いあえる関係をもつことが大切である。

## 今後やってみたいこと

森の健康診断が来年度で10年を迎え、終了するが、今後は、現在も行っている森の健康診断の全国出前授業をもっとやっていくことになるのではないかと考えている。

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か

全国で森の健康診断を始めようとする団体に、現地に出かけてリーダーの養成から運営までのノウハウを教えるため、人材、費用の確保が必要になる。

## チームオリジナルの質問

<質問内容> 行政とどのように関わっていますか。また、補助金などの支援を受けていますか。

<答え> 行政(豊田市)からは、金銭的にほとんど助成を受けていない。各グループや会員からも、カンパはいただいているが、会費として強制的な徴収はしていない。その点が自立しており、民主的な運営で、最適なスタンスだと思っている。

また、会員はとよた森林学校の卒業生を対象としており、卒業後はその先輩が面倒を見る形で、森林ボランティアとして育成している。矢森協としては、ある程度能力を持った人で、きちんとした団体しか受け入れない。そのため、メンバーは非常に自主的で、細かな指示をしなくてもみんな動けるところがすごい。

## その他、伝えたいこと

○私たちの仕事は、家庭教師。

山主にプロのように教えることはできないが、学生家庭教師のように、科学的に山仕事を学び、気づく楽しさを教えることはできる。

○私たちの仕事は、触媒。

都会住民に対し山の大切さを語り、素人山主に対しラブコールを送り、山仕事のプロに対し自信を持ってと励ます、3者間の「触媒」となっている。

## 写真



森の健康診断の様子



協働間伐モデル林にて